

第42回 東京芸術文化評議会

令和8年5月25日（月）



【報告】

CONTENTS

01

芸術文化を取り巻く概況

CONTENTS

02

これまでの文化施策の経緯

CONTENTS

03

進行中の主な取組

1. ARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）
2. 国際美術展「TOKYO ATLAS」
3. 江戸文化の魅力発信
4. 子供の文化体験の充実
5. 人材育成の充実
6. 来年度以降に予定される事業

CONTENTS

04

都立文化施設の次期指定管理

【議事】

CONTENTS

05

芸術文化のハブ機能の強化

報告

世界における東京の評価

世界の都市総合力ランキング2025※で東京が初の2位

	2024年	2025年
総合ランキング	3位	2位
「文化・交流」分野	3位	2位

(一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所)

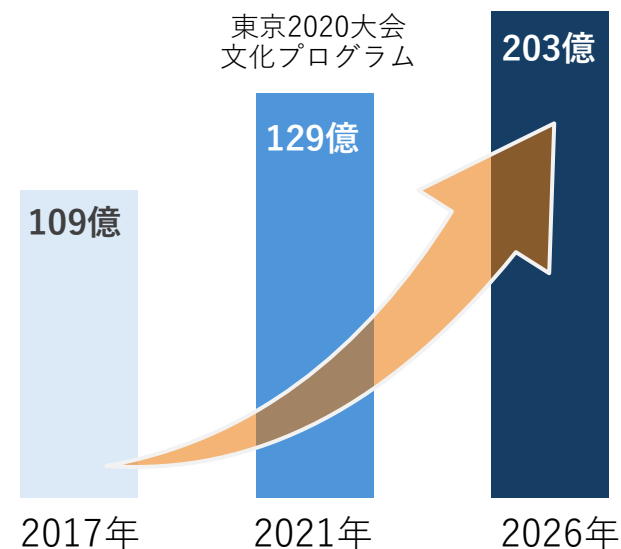
都民やアーティスト等の意識変化（直近5年比較）

指標	2021年	2025年	増減
若者の鑑賞割合	21.8%	37.9%	+16.1
鑑賞に関心があるが、 <u>鑑賞していない人</u> の割合	24.5%	12.7%	-11.8
国内外アーティスト等の <u>活動場所に関する東京の評価</u>	48.3%	58.9%	+10.6
アーティスト等による <u>東京の制作環境の評価</u>	36.4%	42.3%	+5.9
<u>Tokyo Contemporary Art Award</u> 受賞者の海外展覧会への出展数(累計)	9回 (2024年)	30回	+21回

(東京文化戦略2030 KPI進捗調査(結果))

国と都の文化関連予算

都の予算は10年で1.9倍に



- ※ 都の予算は文化財関連、施設管理・改修経費を除く
- ※ 国の予算の約4割は文化財関連予算
- ※ 国と都の当初予算ベースでの対比

【参考】国（文化庁）の予算は横ばい



コロナ禍で築いたネットワークや国際イベントを契機とする文化プログラムで培った経験・ノウハウを生かし、新たな文化施策を推進

2020大会
文化プログラム



世界陸上・デフリンピック
文化プログラム



オールウェルカム TOKYO 協力団体 327
鑑賞サポート助成 158事業

ARTE TOKYO



TOKYO ATLAS

アクセシビリティ強化

ネットワーク構築

助成メニューの拡充

若手活躍の場拡大

R 7

R 8

子供施策充実

江戸文化の魅力発信

(R9予定)
国民文化祭

アートにエールを!

2万人・600団体

R 3

03 進行中の主な取組

1. ARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）
2. 国際美術展「TOKYO ATLAS」
3. 江戸文化の魅力発信
「**EdoTokyo** キャンペーン」
4. 子供の文化体験の充実
TOKYOカルチャーデビュー 他
5. 人材育成の充実
6. 来年度以降に予定される事業

秋冬の東京を文化で彩る新たな都市の祭典

日程 R8年10月10日～12月31日

分野 現代アート、舞台・演劇、映像、エンタメ、イルミネーションや街中でのプログラム等

都市を舞台に、多彩なプログラムを結び合わせ、
一つひとつの輝きを都市全体の魅力として描き出す



「芸術文化プロモーション部会」の議論も踏まえ、「ARTE」の認知拡大と集客策を効果的に展開

主な意見

- ・ バトンを30年つなげていき、世界が認めるイベントにするためのスタート
- ・ 「何か面白そう」と来たくくなるような話題になるコンテンツが必要
- ・ 都内全域にあるいいイベントや東京を代表するホール・美術館などと連携を

3つのプログラムをARTE TOKYOとして一体的にプロモーション

コアエリア (3か所)

コアプログラム

実行委員会が実施

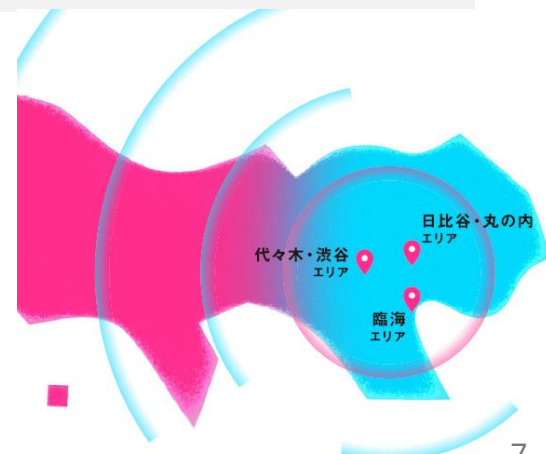
ハイライトプログラム

コアプログラムと連動性
が高い催し・ベニュー



パートナープログラム

同時期に開催する官民
等団体主催プログラム



2. 国際美術展「TOKYO ATLAS」【R8新規】

「ARTE TOKYO」の臨海エリアの中心プログラムとなる美術展

日程：R8年10月10日～12月20日

会場：台場エリア、青海エリア、天王洲エリア



国際美術展 TOKYO ATLAS

コンセプト

若手アーティストたちを世界へ



都がサポートしてきた
若手の特別展を開催

文化芸術を力に変える企業に光を



企業のアートとのコラボレーションなどアート×ビジネスの取組を紹介

アートシーンを支える多様な職能の顕在化

子どもたちが
アートと出会う



プロフェッショナルに
光を当てビジネスとして
の確立を後押し

アートを核とした
賑わいづくり

3-1. 江戸文化の魅力発信

■ 江戸文化の魅力を整理

「江戸文化の魅力発信部会」(R7.1~)において、世界遺産を見据え、江戸文化の価値と発信の方向性を議論

- 個々の文化資源の価値・歴史を整理
- 国内外の文化との比較
- 世界への発信の方向性を整理

主な意見

- ・江戸は発展の中で様々な文化を創出
- ・海外専門家のアドバイスは重要
- ・世界の注目が集まる機会を最大限活用

■ 東京に世界の注目が集まる機会を活用し、江戸文化の魅力を発信

東京2025世界陸上



「Edo Tokyo」の櫓を背に走るマラソン選手たち

マラソンコースに浮世絵フラッグを掲出
(銀座・日本橋・秋葉原)



空港に歓迎バナーを設置
(羽田)

東京マラソンEXPO 2026



Edo Tokyoブース

都内各地に息づく江戸文化の多彩な魅力を繋ぎ合わせ、官民一体で発信する新たな取組を始動

- ◆ 季節毎にテーマを定め、江戸に所縁のある行事等の開催期を捉え、区市町村や伝統芸能団体、美術館等と連携し、都民や来訪者に集中的にPR
- ◆ リニューアルオープンした江戸東京博物館も拠点として活用



様々なステークホルダーと連携し江戸文化の魅力を発信



EdoTokyo 春
Spring 2026



季節別ロゴマーク、キービジュアル

4. 子供の文化体験の充実

TOKYOカルチャーデビュー 【R7～】

都と民間のリソースを掛け合わせ、これまで体験機会に恵まれなかった子供たちを含め、社会全体で心に残る文化体験を届けていく

◆ 文化体験の入口となる、多彩な分野を集めたフェスティバルを開催 【R8新規】

事業展開

子供への深い体験を共創

今夏オープン

子供×文化の情報ポータル

賛同33団体

多様な主体をつなぐハブ機能を構築



ニーズやデータを収集・分析

コーディネーター養成
プログラム

子供の文化体験を支える人を育む

R8年4月
カルチャーデビュー
イベントの様子▼



4. 子供の文化体験の充実

ステートメント カルチャーデビューの事業推進の礎となる考え方を賛同企業と共に考案

「文化」や「アート」にふれて、心が動いたときのわくわくした気持ち
おとなになっても色あせない、大切な思い出
自分の感性のままに、好きなことに触れ、好きなように表現する。自分らしく

明日に向かう勇気が湧いてくるような瞬間を
みんなでひとつのものをつくる、同じ空間で感動や喜びを共有できる経験を
そのすべてを子供たちの手に届けたい
そんな想いをTOKYOカルチャーデビューは大切にしています。

かけがえのない体験を「特別なもの」ではなく「あたりまえ」のものに
みんなで力を合わせ、子供たちを文化で包み込む、大きな「輪」を広げていきましょう。

ロゴ



- ◆ 「ふれる」「つくる」などのキーワードから連想される「手」をモチーフに
- ◆ サポートする大人たちの手の重なりの中に若葉が芽吹くように子供の手が表れており、全体で花を咲かせているイメージ

4. 子供の文化体験の充実

ネクスト・クリエイション・プログラム

【R6～】

子供たちがより深く、より高いレベルで学べるよう、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルから指導を受けることができるプログラム

◆R8年 全6プログラムを実施予定

■プログラム(例)

- 映画とわたしの5日間(是枝裕和監督)
 - こどもファッションプロジェクト(コシノヒロコ氏)
- ※ビジュアルアーツ、キッズユースオープンキャンパス等を展開



親子観劇・鑑賞しやすい環境を提供

・シアター・デビュープログラム

プログラムを親子で観劇する際の割引
【東京文化会館】

・アート教育付き託児サービス

託児中の子供が、絵本や作品の鑑賞、アート制作を体験
【Art Week Tokyo】

・文化体験が可能な託児サービス

子育て中の観劇や鑑賞をサポートし、子供も文化を体験

【東京芸術劇場】
【東京都現代美術館】



Photo by Hajime Kato

5. 人材育成の充実

アートマネジメント人材等海外派遣【R5～】

アーティストと社会をつなぐ若手人材を海外に派遣。創作現場に触れ、海外とのネットワークを作る機会を提供

◆R8年

派遣先を拡充（5⇒7地域）、21名（予定）

- オランダ・フェスティバル
- シドニー・ビエンナーレ など



タレント・トーキョー ミートアップ・サポート・プログラム【R8新規】

修了生に国際映画祭におけるネットワーク形成の機会を提供し、国際共同製作の推進等を支援

◆R8年 5名派遣（予定）
ロカルノ国際映画祭 など



タレント・トーキョー上映会【R7～】

修了生が監督・プロデュースした作品を上映、トークも実施。東京都写真美術館と連携して開催

◆R8年
11月（調整中）



タレント・トーキョー：アジアの映画人材を対象に、世界で活躍するノウハウの提供やネットワーク構築の支援等を行う人材育成事業 14

6. 来年度以降に予定される事業

第42回国民文化祭

第27回全国障害者芸術・文化祭

※一体的に実施

主催：文化庁、厚生労働省

共催：東京都

日程：R9年9～12月（予定）

- ・地域の資源等を活かした文化の祭典
- ・都道府県持ち回り開催（第1回が東京）
- ・各種文化活動の全国規模での発表・交流等を通じ、芸術文化振興に寄与
- ・福祉局と連携して実施

◆国民文化祭では、都が同時期に実施する文化事業と連携予定



R6 岐阜県開催の様子



R7 長崎県開催の様子



04 都立文化施設の次期指定管理

■ 都立文化施設の次期指定管理

1. 江戸東京博物館
2. 東京都現代美術館
3. 東京都庭園美術館
4. 東京都美術館
5. 東京都写真美術館
6. 東京芸術劇場
7. 東京文化会館

都立文化施設の次期指定管理

現指定管理者

公益財団法人 東京都歴史文化財団 （期間：R3年4月～R9年3月）

検討経緯

- R7年8月～10月 都立文化施設の運営検討小部会で議論
- R7年12月 第41回東京芸術文化評議会（書面）で報告

都立文化施設の運営検討小部会報告（第41回東京芸術文化評議会）

- ・ 指定管理者について
これまでも各館に横ぐしを通す施策を主導するなど、都の文化政策の実現に十分な実績を持つ「アーツカウンシル東京」を抱え、政策連携団体として政策を迅速に反映できる**公益財団法人東京都歴史文化財団**が運営する必要がある。
- ・ 指定期間について
10年程度の長期間が必要（制度上最長10年）（R9年4月～R19年3月）
専門人材の育成、国際連携や戦略的な課題解決の実現には**十分な準備期間と継続性が必要**である。

○次期指定管理は、R8年8月までに庁内関係部署との議論・調整や、指定管理者選定委員会での議論を行い、10月の第三回都議会定例会で議決予定

1. 江戸東京博物館【R8.3.31リニューアルオープン】



江戸文化の魅力発信拠点としての新たな展開

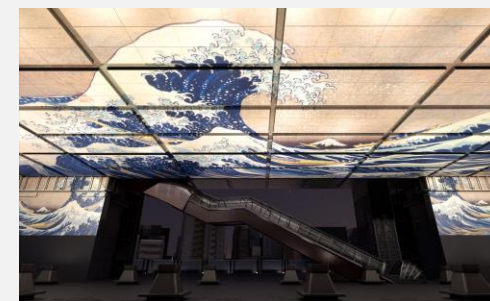
何度も訪れたいくなるような、「東京のアイコン」となる施設を目指す

<リニューアルのポイント>

- ◆ 臨場感、没入感を高める演出
 - ・ 収蔵品を活用した空間演出
- ◆ 江戸東京文化の魅力発信
 - ・ 大型模型等の新設・仕様のアップデート
 - ・ インバウンド向けの体験プログラム など



「鳥居」をモチーフとしたアプローチ



大型映像投影
(3階江戸東京ひろば)

【リニューアル後の反応】

- ・ 来場者数は、**目標を上回るペース**で順調に推移し、5月20日時点で**約263,000人**
- ・ 4月11日時点でメディア露出を347媒体で獲得。広告換算額は約8億1千万円



中村座
(5階常設展示室)



服部時計店
(5階常設展示室)

<今後の展開>

- ◆ 専門人材、収蔵資料、ネットワークの活用
- ◆ 伝統芸能公演の拠点 (大ホール・小ホール)

2. 東京都現代美術館



海外との交流を促進し、世界水準の美術館を目指す

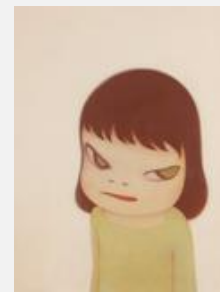
質の高い企画展、コレクションなど、開館30周年を迎え、次のステージへの取組を具体化する「現美のミライ」計画を策定

(方向性)

- ◆ **海外標準の美術館としての体制整備**
 - ・ 海外と渡りあえる人材のスペシャリティを充実
 - ・ 人材育成及び海外人材の採用 など
- ◆ **現代美術館の魅力を向上し、海外発信・交流の強化**
 - ・ 発信力のあるコミッションワークの実現
 - ・ 海外美術館との人材交流 など
- ◆ **アート分野をはじめとした社会への貢献**
 - ・ 企業等へのアート・ラーニングを充実
 - ・ 子供・若者を引き付ける仕掛けづくり など
- ◆ **マーケティングに基づく事業展開、情報発信**
 - ・ インバウンド等へのデジタルマーケティング
 - ・ JNTOなど様々な外部団体との連携



ヘア・リボンの少女
ロイ・リキテンスタイン



サヨン (莎詠)
奈良美智

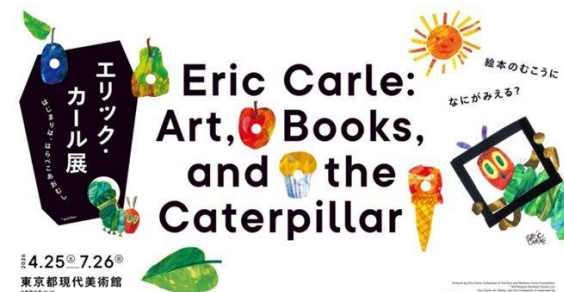


PixCell-Deer #17
名和晃平

主な収蔵品



特徴的な館のアトリウム



エリック・カール展
(R8年4～7月)

3. 東京都庭園美術館



ワン・アンド・オンリーの“庭美”ブランドを確立

「誰にでも開かれた美術館」の実現に向けて

ランドデザイン・保存活用計画に基づく取組をさらに発展

- ◆ 旧朝香宮邸の公開エリアの更なる拡大
- ◆ ユニークベニューを活用した館のブランド向上
- ◆ 「邸宅」と「庭園」の回遊性の向上
 - ・ 「東屋」を活用した賑わいの創出
- ◆ 訪れたいくなる仕掛け
 - ・ 正門エントランス周辺施設の有効活用
 - ・ 日本庭園や茶室などを活用したインバウンド対応



本館中庭（現在未公開）



東屋のイメージ

4. 東京都美術館



100周年を迎えた「アートへの入口」

すべての人に開かれた「アートへの入口」

◆ 魅力的な展覧会の開催

- ・世界の美術館と提携し、名品に出会える場を提供
- ・東京都コレクション展

◆ すべての人々がそれぞれのスタイルで美術館を楽しむアート・コミュニケーションの推進



とびらプロジェクト

◆ 今後実施する大規模改修を契機に、館内外の空間デザインや、公募棟展示室の活用策等を検討

5. 東京都写真美術館



写真・映像総合美術館として存在感を確立

施設や立地を最大限活用し、一層の賑わい創出に向けた検討を開始

◆ 戦略的な展覧会ラインナップ

- ・集客力のある収蔵展、企画展、誘致展の実施
- ・フロアの横断利用など



出光真子展
(R8年6～9月)

◆ 映像ホールの活性化

- ・国際映画祭受賞作、ドキュメンタリーの上映
- ・ショートフィルムも気軽に鑑賞

◆ 恵比寿映像祭及び国内外連携

- ・恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設、国内外の企業・研究機関との連携強化

6. 東京芸術劇場



R8年度、新たな芸術監督が就任

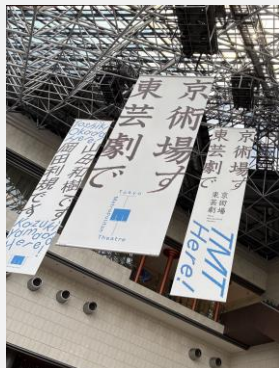
舞台芸術部門と音楽部門。芸術監督が初めて
二人体制となり、新たな展開へ



© Kikuko Usuyama
岡田利規監督



© Zuzanna Specjal
山田和樹監督



- ◆ 「芸術文化の創造発信」
 - 「人材育成・教育普及」
 - 「賑わい」「国際文化交流」
- の拠点を目指す

- ・ 東京舞台芸術祭の中核的な会場として、質の高い作品の創造・発信に寄与



TACT FESTIVAL 2026

- ◆ 字幕・音声ガイド等の鑑賞サポートなど
アクセシビリティの取組も充実

7. 東京文化会館



リニューアルオープン後の新文化会館

大規模改修休館（R8～10年度中）
新たな東京文化会館の展開を検討

- ◆ 休館中は、都内各地の文化施設と連携して事業実施



©堀田力丸

Music Program TOKYO
Workshop Workshop!



©堀田力丸

東京音楽コンクール

- ◆ リニューアルオープンを見据えた検討
 - ・ 再開館後の事業
 - ・ 施設サービスのあり方 など

議事

05 芸術文化のハブ機能の強化

1. ハブ機能（拠点）の形成
2. 生活文化局・歴史文化財団による文化事業への
コンサル機能の強化

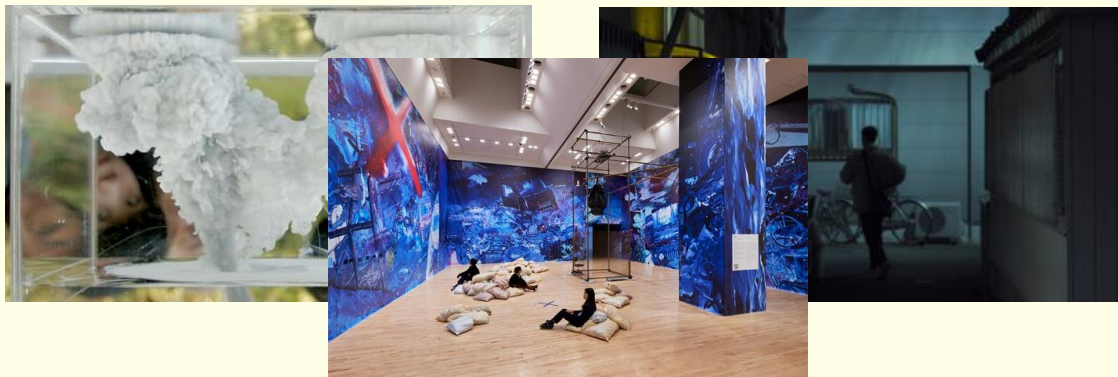
1. ハブ機能（拠点）の形成 ①

多様な文化資源を結び付け、発信するハブ機能（拠点）を形成。世界中から関係者が集う施設へ。渋谷区神南一丁目地区の再開発の進捗に合わせ、ハブ機能を実現する施設整備に向けた検討を開始

導入機能イメージ

今の東京の最先端のアートシーンがわかるショーケース

- 現代美術館とコラボレーションした特別展示
- 若手によるエッジの効いた作品、都の育成人材のキュレーション



国際的アートイベント等の機会に、海外の著名なキュレーターや館長を招聘、作品・人材をPR

最新テクノロジーで
イノベーションを
創造する場

スタートアップとの協働等



担い手を育成・支援
アーティストのコンシェルジュ

STARTBox

TCAA

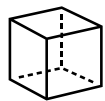


TIBなど各局事業・
民間事業との連携、
専門人材の交流・発展



1. ハブ機能（拠点）の形成 ②

ハブ拠点が整備されるまでの間、導入される機能については先行して実施・充実を図っていく



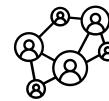
最先端の アートシーンの発信

- ◆ 「ARTE TOKYO」や「TOKYO ATLAS」で、若手支援アーティストの作品展示
- ◆ アーティスト・フェローの作品展示（CCBT）
- ◆ 国際的作家によるコミッションワーク作品等の展示（現代美術館）



担い手育成・支援 （専門人材の交流・連携）

- ◆ アーティストの創作拠点（START Box）
- ◆ 若手アートマネジメント人材の海外派遣
- ◆ レジデンス・プログラム（TOKAS）
- ◆ TCAAのブランディング



アーティストの コンシェルジュ

- ◆ アーティスト・担い手等データベースの構築
- ◆ 東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」
- ◆ アートと社会の「つなぎ手」育成

◆ 生活文化局・歴史文化財団による文化事業のコンサルティング開始

2. 生活文化局・歴史文化財団による文化事業へのコンサル機能の強化【R8新規】

現状

- ◆ 全庁的に文化事業の推進の機会が増え、生活文化局としての関与がより重要な状況
- ◆ 世界陸上等の大規模イベント、アート人材育成などで知見と人的リソース・ネットワークを蓄積

R8

「生活文化局カルチャーワークス」を設置

※生活文化局・歴史文化財団のノウハウ・リソースを全庁的に活用できるよう、相談を受け付ける専門チーム

提供メニュー例

企画段階からの助言

第一線で活躍するアート人材とのネットワーク

多彩なアーティストやパフォーマーのアレンジ

各館の収蔵品の貸出し

等



将来 支援アーティスト・クリエイターと民間事業をつなぐ ハブ機能へ拡げていく